

1 研修があると言われましたが…… (日本人と働く心がまえ)

「自分なら、どう思いますか？ どうしますか？」

私は、自分の国での就業経験を評価されて、日本の企業で働くことになりました。日本でもすぐに自分の実力を示せると楽しみにしていたところ、入社後、数か月は研修期間だと言われました。

私は、大学で専門の技術を学び、すでに現場での経験もあるのに、何を学ぶ必要があるのでしょうか？



クイズに答えましょう

問題 次の①～⑤のうち、日本の会社について正しいものはどれでしょうか。すべて選んでください。

- ① 日本の会社は、午前9時から仕事が始まる。
- ② 日本には、制服が決まっている会社もある。
- ③ 日本の会社に入ると、定年まで退職できない。
- ④ 日本には、残業しない日を決めている会社もある。
- ⑤ 日本の会社では、毎週金曜日に飲み会をする。

答え ()

理解しましょう

1. 異文化のなかで働くこと

日本社会という異文化のなかには、自分の国とは違った仕事のやり方・考え方があることでしょう。一人ひとりの考え方が違うのは当然ですが、文化が違えば、考え方の違いはより多いものです。仕事を始めると、やり方や考え方の違いについて苦痛を感じることもあるでしょう。しかし、違いには、何か理由があるはずです。理由がわかれば、理解できることもあるはずです。

本書では、日本人と働く前に知っておいたほうが良いことや、会社と仕事に対する日本人の考え方、日本の会社の仕組みなどを紹介します。ただし、同じ日本人にもいろいろな考え方の人がいますし、同じ日本の会社であっても、会社の仕組みはそれぞれにずいぶん違います。このため、日本人や日本の会社がすべて苦かれているとおりだと思いのではなく、「これは代表的な例だ」と理解してください。

そして、実際に仕事を始めて、いろいろな違いを感じたときは、ぜひ、周りの日本人たちと話し合ってみてください。異文化のなかで自分の力を発揮する第一歩として、違いがあることをきちんと理解することが必要です。

2. 日本の会社の制度

① 日本の雇用契約

世界の多くの会社では、雇用契約を結ぶとき、仕事の内容がはっきり示され、示された仕事を担当するという契約をします。しかし、日本では、具体的な仕事の内容は示さずに契約を行うことが多く見られます。つまり、日本の会社では、最初は開発の仕事をしていたのに、次の年には経理の仕事をするといったこともあるのです。

自分の技術を生かそうと思って入社した会社で、自分の専門と違う仕事をするなど考えられないという人もいますでしょう。しかし、ほかの仕事に移る（異動する）というシステムがあるために、現在の仕事に人が必要でなくなったときも、解雇されず、ほかの部署に移って仕事を続けることができるのです。

② 終身雇用制度

会社が社員を定年まで雇う制度を、終身雇用制度と呼びます。①のとおり、日本の会社では、いろいろな仕事に移るシステムがあるので、多くの場合、定年※まで同じ会社で仕事ができることになります。終身雇用制度があるために、社員の生活が安定するといえます。

※定年
就業規則で決められている会社との契約が終わる年齢のことです。なお、就業規則については、第2章第2節で詳しく説明しています。

3 年功序列制度

世界の多くの会社のように、仕事の内容を決めて雇用契約をすれば、担当する仕事に合わせて賃金を決めることができます。しかし、日本の会社は、雇用契約のときに仕事の内容が決まっていなことが多いため、仕事の内容によって賃金を決めることは難しいのです。そのため、日本の会社の多くは、会社で働いた年数や年齢によって賃金や役職を決める制度（年功序列制度）になっています。

しかし、現在の日本では、年功序列制度だけでなく、仕事の内容によって評価をするという制度（成果主義制度）を取り入れる会社も多くなってきました。成果主義制度によって、実力があれば若くても高い賃金をもらえたり、高い地位に就いたりすることも可能です。

3. 日本人の会社に対する考え方

1 会社の人とは家族

日本人は一つの会社で長く働くことが多いため、同じ会社で働く人たちを家族のように考える文化があります。たとえば、上司の中には、部下のことを自分の子どものように考える人もいます。そのため、部下の個人的な問題についても心配する人もいます。自分の個人的なことにまで心配してもらわなくていいと思う人もいるかもしれませんが、会社の人を家族のように考えることは、日本の文化といえます。

2 人を育てる日本の会社

日本の会社では、日本の学生を採用するとき、技術が完成した人よりも、将来、活躍してくれそうな人を選ぶ傾向があります。今はまだ戦力にならなくても、会社が育て、将来、会社を支える人になってほしいと思っているのです。日本の学生は、自分の専門と違う業種の会社に入社することもよくありますが、入社後に多くの研修が用意されています。

自分の専門があることは強みになりますが、会社の方針や考え方を理解するためには、研修が大切な場となります。また、一緒に研修を受けてもらうことで、チームとして働く※気持ちを高めるといった目的もあります。

3 転職・起業

2. のとおり、日本には終身雇用制度や年功序列制度があるため、1つの会社で長く働くことが生活の安定につながると考える人が多くいました。しかし、不況により倒産したり、成果主義制度を導入したりする会社が増えてきたことから、日本の社会にも大きな変化がありました。

このため、転職を考える人も多くなり、ほかの会社で働いた経験のある人を積極的に採用しようとする会社も増えてきています。また、日本の政府や社会も、若い人たちが起業※することを応援するようになってきています。

※チームとして働く

第1章第6節で詳しく説明しています。

※起業

自分で新しい仕事を始めることです。

単語を深めましょう!

1. あなたの国から来^{らい}口^にしたばかりの後^{こう}輩^{はい}に、世界の多くの会社の雇用^{こようせいど}制度と、日本の多くの会社の雇用^{こようせいど}制度の違^{ちが}いを説明^{せつめい}しましょう。

.....

.....

.....

.....

.....

2. 次の①～③のような場合、理由^{りゆう}を考えて答^{こた}えてください。

① 上司^{じょうし}が、自分の家族^{しやうぞく}や休日^{きゅうじつ}の過^すごし方^{かた}など、個人^{こじん}的なことについて質^{しつ}問^{もん}をします。どうして聞^きこうとするのでしょうか。

.....

.....

.....

.....

② 同僚^{どうりょう}の日本^{にほん}人^{じん}社員^{しやいん}は中国^{ちゅうごく}語^ご学^{がく}科^かを卒^{そつ}業^{ぎょう}したそうですが、会社^{かいはつ}ではシス^{しす}テ^てム^む開^{かい}発^{はつ}部^ぶに配^{はい}属^{ぞく}され、中国^{ちゅうごく}語^ごはま^また^たく^くつ^つか^かっ^って^てい^いま^ませ^せん^ん。どうして採^{さい}用^{よう}されたのでしょうか。

.....

.....

.....

.....

③ 同期^{どうき}の社員^{しやいん}が、営^{えい}業^{ぎょう}部^ぶから経^{けい}理^り部^ぶに異^い動^{どう}になりました。今^{いま}まで経^{けい}理^りの仕^し事^じの経^{けい}験^{けん}はま^また^たく^くないそうです。どうして異^い動^{どう}になったのでしょうか。

.....

.....

.....

.....

2 課長と食事に行きましたが…… (上司・先輩との付き合い方)

「自分なら、どう思いますか？ どうしますか？」

昼ごはんは、たいてい社員食堂で食べていますが、今日はとても混んでいたもので、たまたま一緒にいた課長に誘われて、近くのレストランで食べることになりました。食事が終わり、レジのところにいくと、お店の人が「別々ですか？」と言いました。すると、課長は「はい」と答えました。私は課長が払ってくれると思っていたので、びっくりしてしまいました。私は社員食堂で食べるつもりだったので、社員証しか持っていなかったのです。



クイズに答えましょう

問題 上司と部下と一緒に昼ごはんに行ったとき、次の①～③のうち日本で一般的なことはどれでしょうか。

- ① 上司は、自分と部下の食事代を払う。
- ② 上司も部下も、自分の食事代をそれぞれ払う。
- ③ 部下は、自分と上司の食事代を払う。

答え ()

1. 日本の上下関係

以前ほど厳しくなくなってきましたが、日本の会社には、まだ上下関係という考え方があります。上下関係は、学校にもあって、クラブ活動などでは「先輩」「後輩」という立場の違いが大切にされています。

社会人になると、その関係は、もう少し複雑になります。学校では、学年が上の人、つまり、年齢が上の人先輩でしたが、会社では年齢が下でも先に入社した人は先輩となります。同様に、自分よりあとから入社した後輩が自分より年上ということもあります。また、年下の人自分の上司になることもあります。

いろいろ複雑な関係はありますが、基本的には、年が上の人、また、立場が上の人には敬意をもって接しましょう。自分より年が上の方は、自分より知っていることも多いものです。また、自分より上の立場の方は、より責任ある仕事をしている人です。こうした人たちを尊重する気持ちが必要です。

2. 敬意を「ことば」で表す

上司や先輩には基本的に敬語[※]をつかきましょう。敬語をつかうことによって、自分と相手の立場が違うこと、相手を尊重している気持ちを表すことができます。敬語が難しいと感じている人は、「です」「ます」でもいいですから、丁寧なことばで話しましょう。また、相手の人が話しているのをさえぎって自分の意見を言ったり、相手の意見をすぐに否定したりすることのないようにしましょう。まずは、上司や先輩の話をよく聞く[※]ことが大切です。話が終わってから、自分の意見を言うようにしましょう。

3. 敬意を「態度」で表す

何かするとき、相手を優先する「お先にどうぞ」という気持ちを忘れないようにしましょう。たとえば、エレベーターに乗るときや、部屋に入るときなどです。また、どこに座るかなどの席次[※]も、社内の人もお客さまと同じように考えるといいでしょう。ほかにも、何か書類などを渡すときは、相手のほうに向けて、両手で渡しましょう。これは、上司や先輩にだけでなく、誰に対しても行ってください。なお、はさみやナイフなどは、刃の先が相手に向かないように注意して渡しましょう。

※敬語
第5章第1節で詳しく説明しています。

※話をよく聞く
第3章第1節で詳しく説明しています。

※席次
第4章第3節で詳しく説明しています。

4. 打ち解けても上司は上司、先輩は先輩

ふだんはとても怖そうだが、飲み会の席などでお酒を飲むと急に親しみやすい人になって、驚くことはありませんか。会社の飲み会でも、職場では少し怖そうな先輩や上司が、お酒を飲みながら話していると、友だちのように感じられることがあると思います。また、職場では聞くことができない、私的（プライベート）な話も聞いて、大変親しい気分になることがあると思います。しかし、それは「お酒の席」でのことです。翌日、出勤したときに、飲み会の席と同じように、話しかけたり、なれなれしい態度をとったりしないように気をつけてください。また、飲み会の席で聞いた話を自分から話題にするのも避けたほうがいいです。「職場」という場面が変わったのですから、職場にふさわしい話し方や態度で接してください。

また、飲み会などで「今日は無礼講だ」と言われることがあります。本来は「上下関係をなくして楽しもう」という意味ですが、無礼講は「楽しく過ごそう」という意味だと考えて、上下関係は忘れずに楽しんでください。⊗

5. 上司や先輩との食事の支払い

年上の人や、目上の人と食事に行くと、必ず上の人がお金を払うという国もあるようです。また、誘った人がお金を払うという国もあるようです。しかし、日本では、必ずしも上の人や誘った人がお金を払うというものではありません。もちろん、ごちそうしてくれることもあります。が、「いつも」ではないので、間違えないようにしましょう。また、ごちそうになったときには、必ずお礼を言うのを忘れないでください。⊗

6. それぞれの職場での上下関係の考え方

最近、社内の上下関係をなくして、社員全員を同等にしようという会社も多くなっています。上下関係があるために、部下が上司や先輩に意見を言いにくい、上下関係が仕事の効率を悪くするという考え方もあります。そのため、「田中部長」「山田主任」のような呼び方ではなく、全員を「さん」で呼ぶようにしている会社もあります。

「敬語はやめよう」と決めている会社であれば、一人だけ敬語をつかう必要はありません。「です」「ます」で話せばいいです。しかし、会社の方針がわからないあいだは、誰に対しても丁寧に話すことを心がけましょう。

また、上下関係をなくす動きや考え方が進んでも、一緒に仕事をする人を大切に思う気持ち、尊重する気持ちは大切にすべきです。

⊗ 無礼講については、第3章第8節で詳しく説明しています。

⊗ 第1章第8節の「お礼は3回」を参考にしてください。

理解を深めましょう!

1. あなたの国から来日したばかりの後輩に、「上司や先輩との付き合い方」について大切だと思うこと、知っておいてほしいと思うことを説明しましょう。

.....

.....

.....

.....

2. 次の①～③のうち、職場で新入社員がしないほうがいいことを選んでください。

- ① 先輩に敬語をつかう。
- ② 社内会議でも、上司には上座に座ってもらう。
- ③ 飲み会で聞いた先輩の恋愛話を昼休みの話題にする。

答え ()

3. 次の①～④のとき、気をつけたほうがいいことを考えて教えてください。

① エレベーターから部長と一緒に降りるとき、どちらが先に降りればいいのか。

② 部長に資料を渡すとき、どのように渡せばいいのか。

③ 部長の話をしているとき、いい意見を思いついたら、いつ言えばいいのか。

④ 親しい先輩が職場で友人のように話しかけてきたとき、どのような答え方をすればいいのか。

4. 次の文章を読んで、()の中に、正しいものには○を、間違っているものには×を入れてください。

- ① 日本では、すべての会社で上下関係が厳しい。 ()
- ② 日本の上下関係は、年齢によって決まる。 ()
- ③ 会社によっては、「佐藤社長」のことを「佐藤さん」と呼ぶ会社がある。 ()
- ④ 無礼講と言われたら、上司に対しても友だちのように話してもいい。 ()